



写真28 S F01 トレンチ④完掘(1) (直上より)



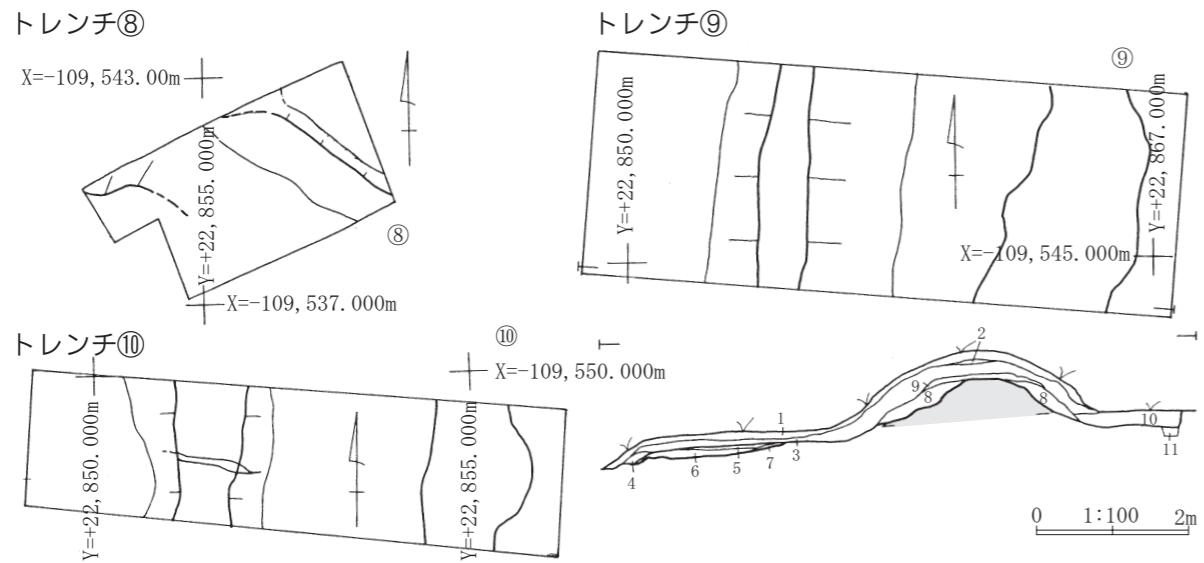
写真29 S F01 トレンチ④完掘(2) (南西より)



写真30 S F01 トレンチ⑤完掘 (南東より)



写真31 S F01 トレンチ⑥完掘 (西より)



土層注記A

1 I層	
2 10YR4/3にぶい黄褐色土 地山ブロックが5%混入 炭化物を多量に含む しまりなし	
3 II層	
4 10YR7/6明黄褐色土 地山ブロックと暗褐色土が少量混入 炭化物を少量含む しまりなし 粘性あり	
5 10YR4/1褐灰色土 地山ブロックが微量混入 炭化物を少量含む しまりあり	SD02a 埋土
6 10YR2/2黒褐色土 地山ブロックが微量混入 炭化物を少量含む しまりあり	SD02a 埋土
7 10YR4/1褐灰色土 地山ブロックが20%混入 炭化物を少量含む しまりあり 粘性あり	SD02a 埋土
8 10YR5/4にぶい黄褐色土 地山ブロックが少量混入 炭化物を微量含む しまりややあり	築地崩壊土
9 10YR6/3にぶい黄橙色土 地山ブロックが微量混入 炭化物を微量含む しまりややあり	
10 II層	
11 10YR6/3にぶい黄橙色土 暗褐色土が少量混入 炭化物を微量含む しまりあり	整地層

第18図 S F02(1)

②S F02 築地壠跡

S F02 築地壠跡は東辺築地壠跡である。6つのトレンチを設定して調査した。南北両端のいずれも検出でき、北端についてはS F01 築地壠跡との接続部分は確認できなかったが、南端ではS F03 築地壠跡との接続を確認することができた。本来の北端の位置を、S F01 築地壠跡のラインと7つのトレンチで検出した築地壠跡を結んだラインとの交点とすれば、S F02 築地壠跡の長さは88.30mとなる。方向はN—6°—Eで、S B01・03 碇石建物跡の方向(N—6°—E)と平行する。

築地壠跡の上部は崩壊しており、0.30~0.60mが残存し、基底幅は1.30~1.45mを測る。⑫トレンチでは積み手の違いを2箇所検出した。ただし、いずれの延長上にも柱穴は検出されていない。2つの積み手の違いの内側の積み土は黒褐色土を主体とするもの、その外側の積み土は黄褐色土を主体とするものである。断ち割りを実施していないので確実ではないけれども、黄褐色土の部分は版築状に積み上げられているが、黒褐色土の部分は粗く土を積み重ねた印象を受け、少なくとも連続した作業とは見なしがたい。なお、黒褐色土の部分の長さは3.50mである。

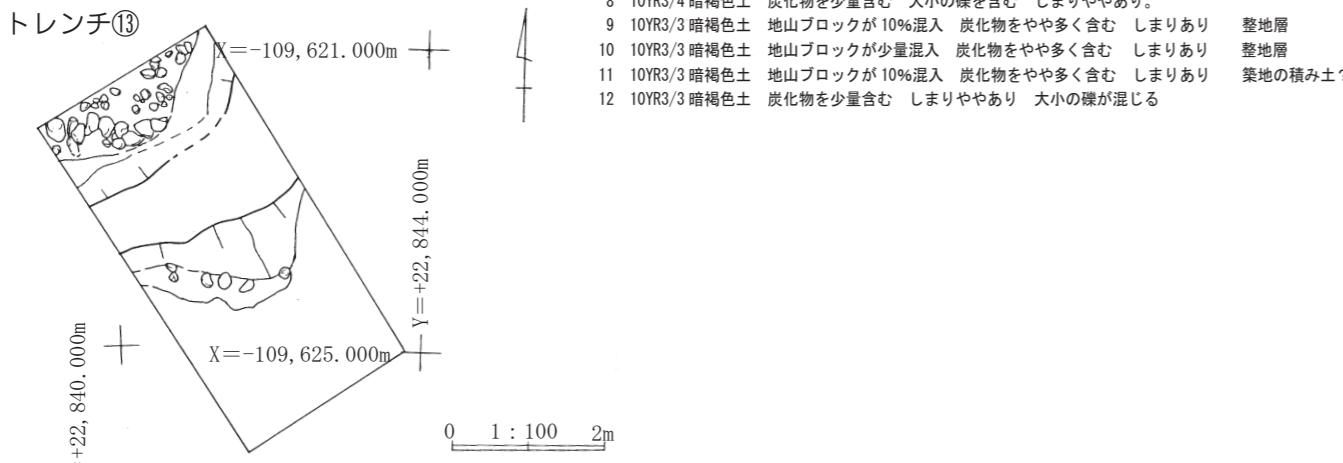
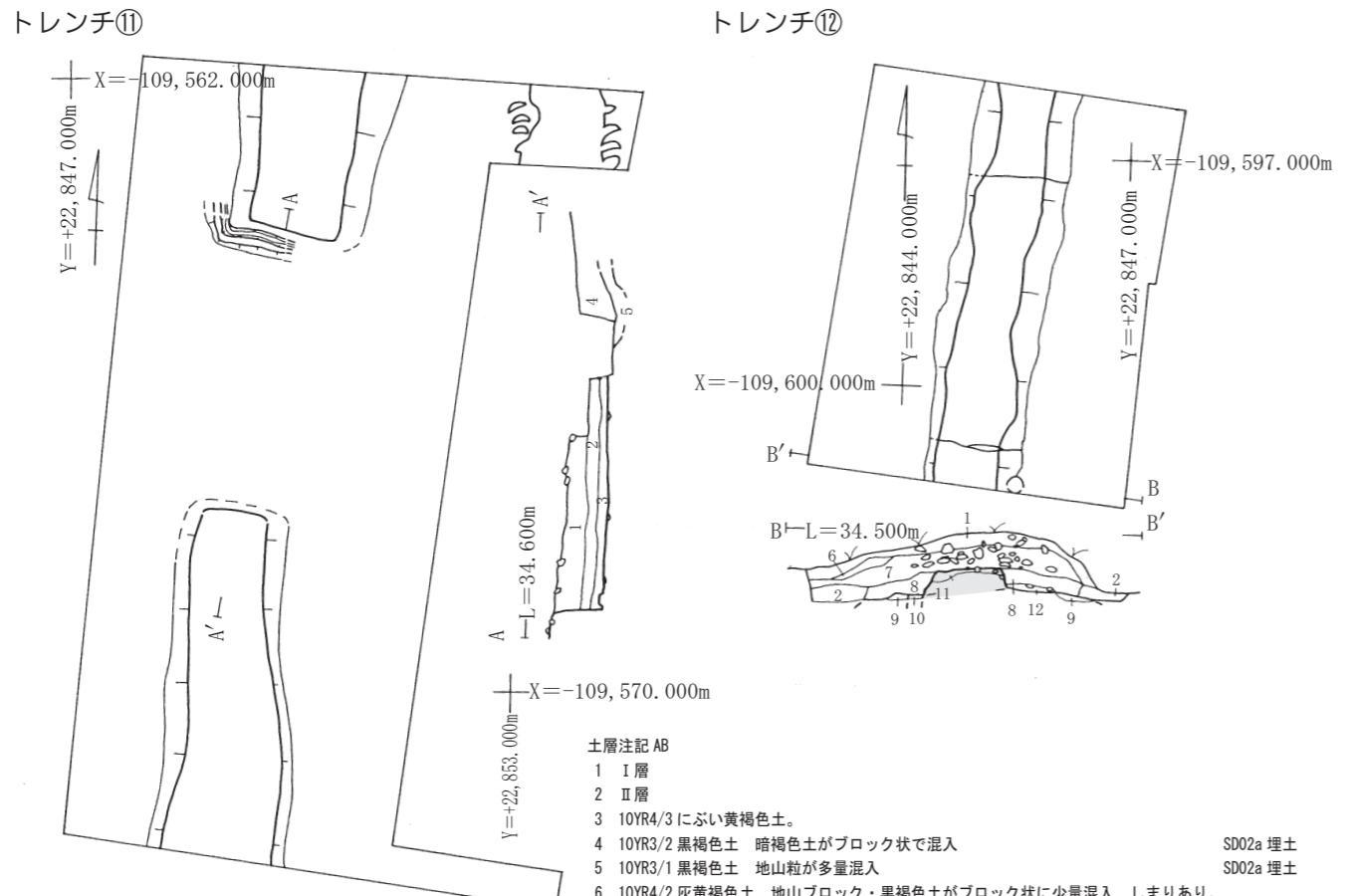
前述のように、⑬トレンチではS F02・03 築地壠跡の接続部分が遺存しており、両者はほぼ直角に交わっている。調査範囲では積み手の違いや添柱となるような柱穴は検出できなかった。また、この部分の積み土は、それぞれほぼ同量の黄褐色土・暗褐色土・褐色土が1~2cmとごく薄くラミナ状に非常に緻密に積み上げられている。また、⑧トレンチでは築地壠跡の直下よりS F01 築地壠跡⑤トレンチ⑥で検出されたのと同じ灰黄褐色土が10cm前後の厚さで堆積していることが確認されているなお、この層からは土器の高台部分が出土している。なお、築地壠跡の中央から北寄り、北端から28.00mと南端から56.90mの間、4.10mが開口している。

③S F03 築地壠跡

S F03 築地壠跡は南辺築地壠跡である。4つのトレンチを設定して調査した。端部を検出したのは、S F02 築地壠跡と接続部分を確認できた東端のみで、西端については未確認である。本来の西端の位置を、S F04 築地壠跡のラインと4つのトレンチで検出できた築地壠跡を結んだラインの交点とすれば、S F03 築地壠跡の長さは108.30mで、その方向はN—95°—EでS B03 碇石建物跡とほぼ一致し、S B01 碇石建物跡の方向とほぼ直交する。

S F03 築地壠跡は他辺の築地壠跡より遺存状況がよくない。特に、S B03 碇石建物跡の西側が悪く、0.05mしか残存していない。それに対して、反対側の東側は他辺より若干残りが悪いといった感じで、高さは0.20~0.44m、基底幅は1.38~1.56mを測る。⑯トレンチでは、長さ20cm前後・幅15cm前後・厚さ7cm前後の扁平な川原石が築地壠跡の裾に沿って並べられているのを確認した。断ち割ったところ、石は2段に重ねられていることが確認された。2・6次調査では、直径20~30cmの円礫が混入されている厚さ35cmほどの整地層が確認されている。積み土は、ともに粒状の黄褐色土が混入した褐色土と黒褐色土を主体土とする2種類で、この2つが7~10cmの厚さで交互に粗雑に積み上げられている。

築地壠跡のほぼ中央にはS B03 碇石建物跡がある。築地壠跡の想定ラインを延ばすと、この棟通りに取り付くが、S B03 碇石建物跡周辺における築地壠跡最下層の下面の標高は、基壇上面の標高とほぼ一致し、基壇がさらに東に続くような様相を見せており、おそらく築地壠跡は基壇の上に載り、建物の妻際まで延びていたと推測される。



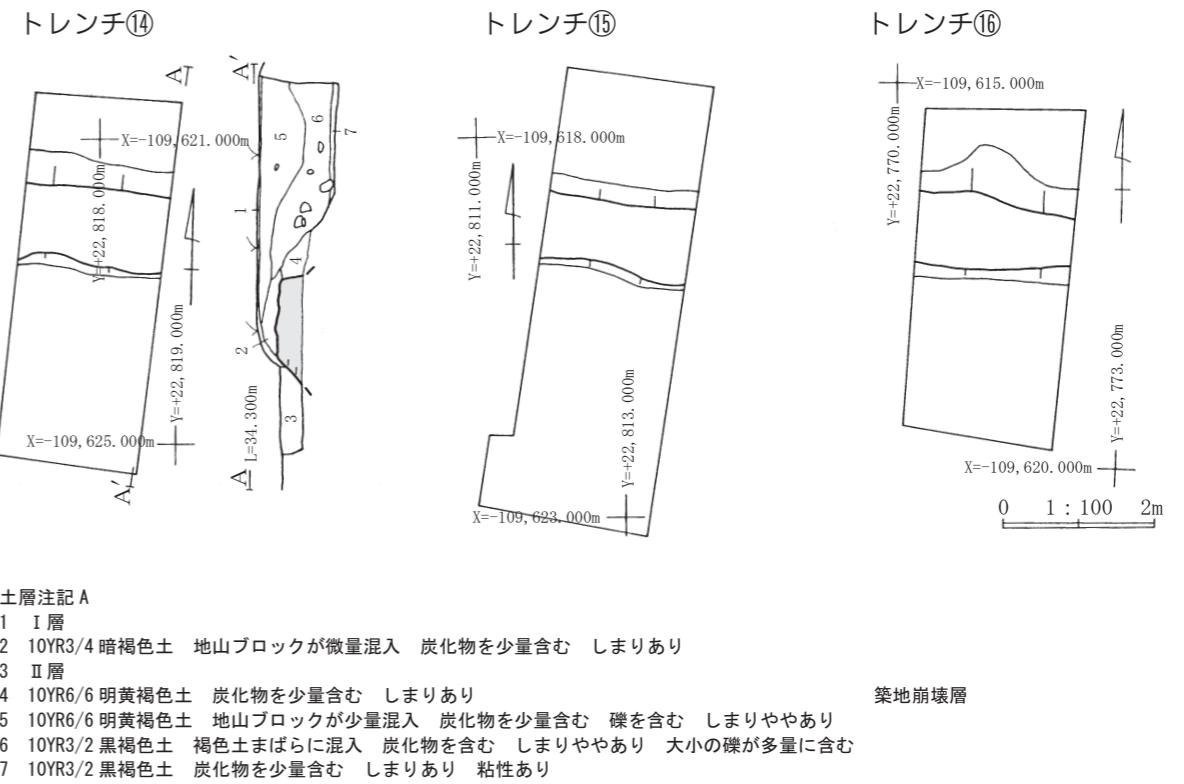
第19図 S F02(2)



写真32 S F02 トレンチ⑨完掘（西より）



写真33 S F02 トレンチ⑫完掘（南東より）



土層注記 A

- 1 I層
- 2 10YR3/4 暗褐色土 地山ブロックが微量混入 炭化物を少量含む しまりあり
- 3 II層
- 4 10YR6/6 明黄褐色土 炭化物を少量含む しまりあり
- 5 10YR6/6 明黄褐色土 地山ブロックが少量混入 炭化物を少量含む 磁石を含む しまりややあり
- 6 10YR3/2 黒褐色土 褐色土まばらに混入 炭化物を含む しまりややあり 小さな磁石が多量に含む
- 7 10YR3/2 黑褐色土 炭化物を少量含む しまりあり 粘性あり

築地崩壊層

第20図 S F03



写真34 S F03 トレンチ⑬完掘（南東より）



写真35 S F03 トレンチ⑮完掘（南西より）

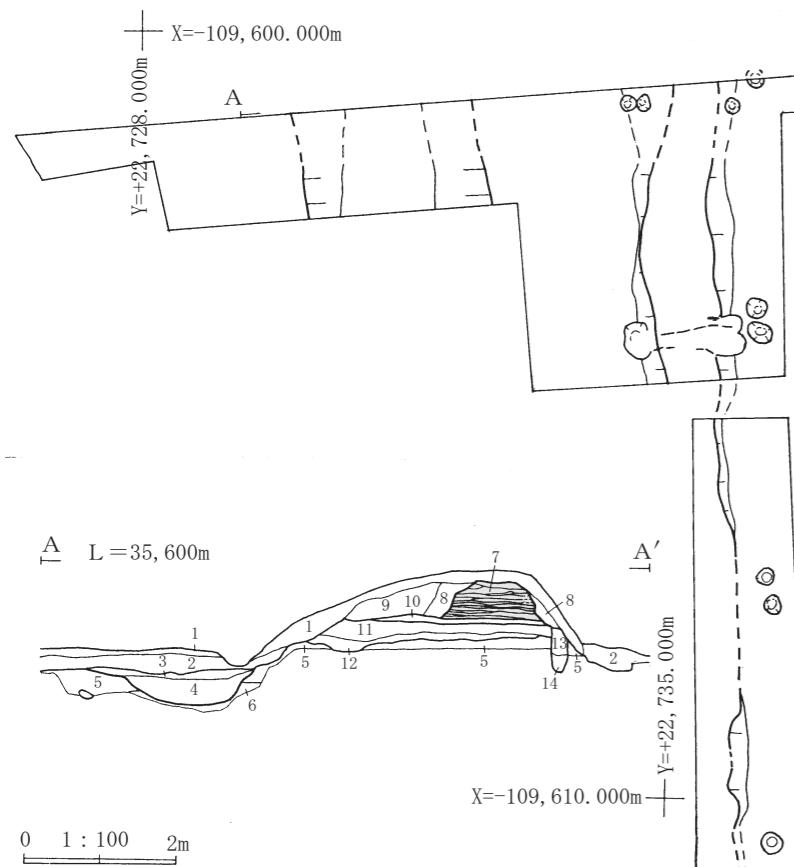
④ S F04 築地塀跡

S F04 築地塀跡は西辺築地塀跡である。5つのトレンチを設定して調査した。北端・南端とも未検出だが、5つのトレンチで検出した築地塀跡のラインと S B01・03 築地塀跡のラインとの交点を端部とすれば、長さは 89.30m で、その方向は N—1°—E である。

築地塀跡の上部は崩壊しており、0.45～0.65m が残存する。基底幅は 1.35～1.40m を測る。IV 層の上に厚さ 10cm ほどの褐色土層が堆積しており (10 層)、整地層と考えられる。その上にほぼ褐色土のみで構成される層と褐色土に黄褐色土が大きくブロック状に混入する層とが 10～20cm の厚さで交互に粗雑に積み上げられている。⑩トレンチでは積み手の違いを 5箇所検出している。これにより 4 区間で積み手の違いの長さを把握できた。その長さは 3.00m・3.25m・3.00m・2.96m である。築地

堀跡の裾周辺で、これに沿う形で直径 20cm 前後の柱穴を検出した。これらはおおむね積み手の違いの延長線上にある。築地堀跡をはさんで互いに向き合っているものもあり、その距離（内法）は 1.60m である。柱痕があるものではなく、埋土も人為堆積の様相をしめしていることから、これらの柱穴は築地堀を構築するために設けられた添柱の痕跡と判断している。築地堀跡のほぼ中央、北端から 42.60m と南端から 42.50m の間、4.20m が開口している。柱穴や礎石が据えられていた痕跡が検出されなかつたため、この部分に建物はなかったようだが、すぐ外側にある S F04 堀跡も同じ箇所が途切れていることから、S F01 築地堀跡と同じように人為的に途切れさせたものと考えられる。

トレンチ⑮



第 21 図 S F04(1)



写真 36 S F04 トレンチ⑮完掘(1) (南東より)

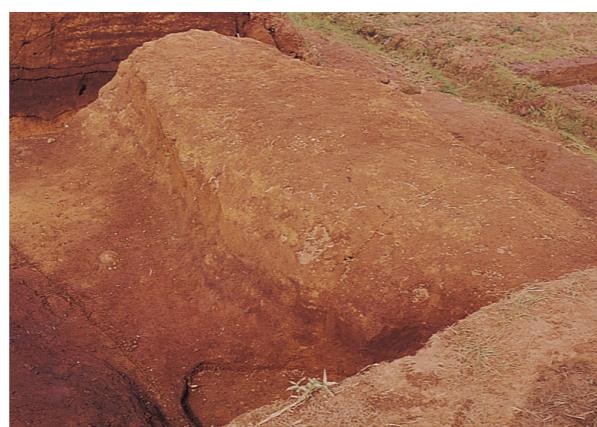


写真 37 S F04 トレンチ⑮完掘(2) (南西より)

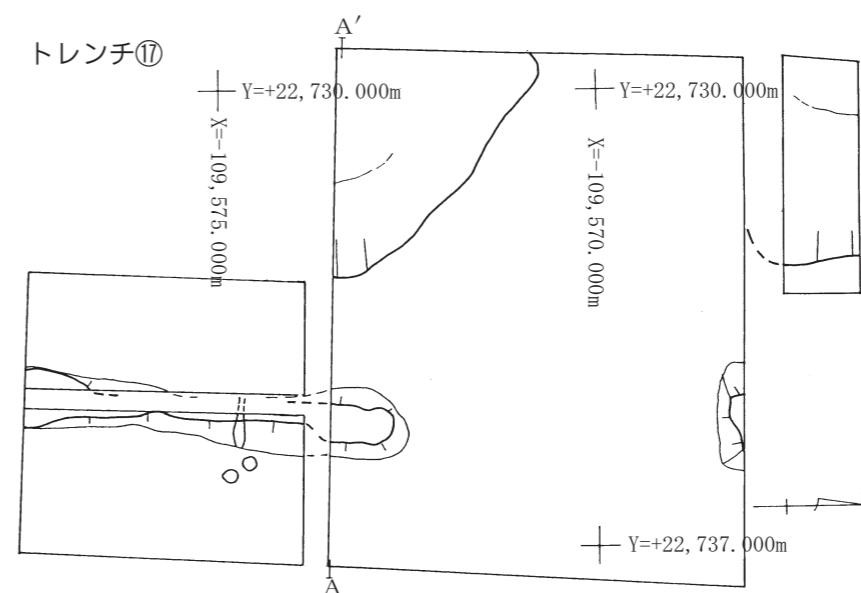


写真 38 S F04 トレンチ⑯断面 (南西より)

土層注記 A

- 1 I 層
- 2 10YR4/4 褐色土 暗褐色土 40%・地山ブロック 10%混入 炭化物を少量含む しまりややあり 築地崩壊層
- 3 10YR3/3 暗褐色土 地山が粒状に微量混入 炭化物を少量含む しまりややあり
- 4 10YR3/3 暗褐色土 地山が粒状に少量混入 炭化物を少量含む しまりあり
- 5 10YR3/3 暗褐色土 地山が粒状に少量混入 炭化物を微量含む しまりややあり。
- 6 IV 層
- 7 II 層
- 8 7 層と同じ(7 層より鉄分が多い)
- 9 10YR3/3 暗褐色土 明黄褐色砂質土が粒状に微量混入 炭化物を少量含む しまりあり
- 10 10YR3/2 暗褐色土 地山ブロックが微量混入 炭化物を少量含む しまりあり
- 11 10YR3/2 黒褐色土 地山ブロックが多量に混入 炭化物を微量含む しまりあり
- 12 10YR2/3 黑褐色土 地山ブロックが少量混入 炭化物を少量含む しまりあり 粘性あり
- 13 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロックが 20%混入 炭化物を少量含む しまりあり 粘性あり
- 14 10YR3/4 暗褐色土 地山が粒状に微量混入 炭化物を少量含む しまりあり
- 15 10YR3/3 暗褐色土 地山ブロックが 20%混入 炭化物を少量含む しまりあり
- 16 10YR3/3 暗褐色土 地山が粒状に少量混入 炭化物を含む しまりあり
- 17 10YR3/3 暗褐色土 灰黄褐色土・地山粒が少量混入 炭化物を含む しまりあり
- 18 10YR3/3 暗褐色土 地山が粒状に 30%混入 炭化物を少量含む しまりあり
- 19 10YR3/3 暗褐色 地山ブロックが 30%混入 炭化物を少量含む しまりあり
- 20 10YR3/3 暗褐色土 地山が粒状に少量混入 炭化物を少量含む しまりあり
- 21 VI 層

SD04a 埋土
SD04a 埋土
SD04a 埋土
SD04a 埋土
SD04a 埋土
SD12 埋土。
SD12 埋土。
SD12 埋土。

第 22 図 S F04(2)